

Finish!

Model: MIYUKIさん

ドイツで得た写実的な技術を駆使し 白肌に咲いた原生のバラ

「花屋のバラじゃなくて、原生のバラって感じやー」。彫り上がったタトウーを見たMIYUKIさんの第一声がこれ。その言葉通り、出来上がったバラは柔らかいだけでなく、生命が宿っているような強さが感じられた。「先日行ったドイツで、沢山の勉強をしました。当初は息抜きの一入旅のつもりだったんですが、初めに連絡を取った彫師さんが、移動先にいる知人の彫師さんを紹介してくれて、その方が、また次の彫師さんを……というように、彫師さんが旅先のナビゲーターをしてくれたんです。そこでアドバイスをくれた方もいて。そのアドバイスというのが、椋妃氏が探していた答えを的確に提示してくれたと言つ。『水彩画や写実的な絵が好きでやってきたんですけど、どうやったらより強弱を付けられるかを考えていたんです。そのときにももらった答えが、影の付け方。例えば、今

回のような植物の場合、花そのものを表現する為には、大地に根をはり、茎や葉が伸びてきて花が咲いているということを示す力強さが必要なんです。それを表現するには、やはり影の付け方が重要なんです。それから、ドイツで刺されたのは建築物の装飾。建物の裏にある歴史を肌で感じました。タトウーの場合も、その後ろにある想いとか、背景を知っておくのは大切なことだと思つんです。ただ、お客さんには専門用語とかないですから、ごく簡単なイメージでもいい。例えばカッコイイからとか、カワイイからとか。強くなりたいたい人と可愛くなりたいたい人では、バラの種類も変わってくる。想像するバラは、人それぞれだから。それはタリスマンでも同じこと。個々の星があって、個々の願いがあつて……。どんな柄でも、その人にとって意味のあるタトウーを彫っていきたいですね。」

彫師データ

エキゾチックな雰囲気と絵画的な美しさを兼ね備えた椋妃流タトウー

幼い頃はファンタジーの世界に没頭し、大学ソートいっばいに、剣と魔法の世界を描いていたという椋妃氏。その後、大学でイランの古代宗教を学んでいた氏は、中東・西アジア地域の神秘思想に魅了されると同時に、ヨーロッパの視点で描かれるオリエンタル世界に興味を持つようになる。そして精確な写実と優美な画風のラファエロ前派主義やロマン主義の絵画に傾倒していくようになったそうだ。そのため、椋妃氏の作品は、タトウーというよりも、絵画を彷彿とさせる美しく立体的な作品が多い。また、椋妃氏の作品を語る上で欠かせないのが、「タリスマン・タトウー」。占星術に基づきデザインされる魔術的シンボルは、ひとつひとつ違った横相をしており、これを入れたことにより、運氣が上がったという人も少なくないそうだ。



取材協力



[Al-Haut] アル・ハウト
大阪府中央区西心斎橋2-10-14
アメリカ村八幡ビル4F
ARTIST●椋妃 (Ryuki)
OPEN●12:00~21:00
第1・3・5水曜日のみ18:00まで
(定休:水曜日と第2・4水曜日)
TEL & FAX●06-6212-2990
URL●http://www.al-haut.com/
E-mail●info@al-haut.com
PRICE●ワンポイント¥20,000~
大きいサイズのもの1h¥12,000
※施術、相談とも完全予約制です



Report:01

ファースト・タトウー How to order FIRST tattoo? の注文法

石松アミ●文 Text by Ishimatsu, Ami
西田 航●写真 Photographs by Nishida, Wataru

1. まずはしっかりと打ち合わせを!

まずはカウンセリング。ここで入れる柄、部位、大きさ、色などを綿密に決める。「最低限、入れたい柄のイメージだけは決めてきて欲しいですね。漠然としたイメージさえあれば、資料を見せながら、どんな方向性でも膨らませていくことができますから」と棟妃氏、MIYUKIさんの場合、当初から左腕にバラを彫ることを決めていたが、棟妃氏が植物図鑑とスケッチブックを片手に説明しながら、さらに詳しい打ち合わせをしていた。結局、肌の色や彼女の雰囲気も考慮し、写実的な真紅のバラを彫ることに。それに加え、なぜバラが彫りたいのか、バラに対する思い入れなどを、バックグラウンド的なことを聞いていたのが印象的だった。彫る前日や当日の注意事項を説明し、カウンセリング終了。



●棟妃氏は施術・相談ともに完全予約制。必ず事前に打ち合わせを行い、しっかり話し合う。その日デザインが決まったからといってすぐに彫ったりはせず、タワーの予約日は後日としている。

モデルデータ

友達が入れたタトゥーを見て、棟妃さんの魅力に取り憑かれました!

今回のモデルは、白肌の持ち主MIYUKIさん(25)。友達が棟妃氏に入れてもらったタトゥーを見て、「自分も彫ることを決意したそう。」「どうせならインパクトのあるバラを一輪入れたい!」と、大阪っ娘ならではの威勢のいいコメント。施術中も、爆笑トーク連発で、肝の大きさを見せてくれた。



3. タトゥーイング (ライン~カラー~完成まで)



●葉の色が終了



●ラインの完成

ここからタトゥーイングの始まり。アウトラインとなる筋彫りに棟妃氏を使用したのは黒のインクのみ、花弁に赤、葉には深いグリーンだった。「ふんわりさせたい部分のラインは、黒は使いません。色を入れれば、ほとんど分からなくなりませよ」と説明しながら彫ってくれたにも関わらず、なんと筋彫りは15分で終了! この後、5分の休憩を挟み、つぶし

の作業に。初めに葉の部分に色を入れた後、花弁に突入。丁度この頃、MIYUKIさんのお友達の様子を見に来たのが「まったく痛くないねん」というひと言に、「おもしろくないやんか」と憤慨。「ここから大阪ならではの漫才トークが始まり、作業は終始大笑いの中で行われた。棟妃氏も「ここまで痛くない方は珍しいですね」と、少々驚きの様子。結局漫才を聞いているうちに、あとという間につぶしの作業が終了。3時間足らずという脅威のスピードであった。



2. 位置を決めてトレースする



●オーダー通り完成したタトゥーの下絵。今回はイメージが湧きやすいよう色を付けてくれた。

いよいよ当日。まずは下絵を肌に転写する「トレース」という作業からスタート。まずトレースする前に、鏡で入れる位置をチェック。このとき、彫師さんの方でもベストポジションを提案してくれるが、自分自身

でももしっかりと鏡で確認することが重要。例えば腕に入れる場合なら、Tシャツから見えていいのかなど、自分のライフスタイルまで考慮して決めたい方が良いでしょう。その後、実際にトレースし、再度位置を確認する。ここで初めて、肌に図柄が乗ったときのイメージがつかめてくる。想像以上に大きかったり小さかったり、またどう

しても位置を変更しない場合は、遠慮せず彫師さんに相談しよう。MIYUKIさんの場合は、一発でOK。腕の幅にバランス良く収まったバラを見て、この時点ですでに、かなりテンションが上がっていた。



タリスマン・タトゥーとは

絵画風のタトゥーの他に、棟妃氏が得意とする作品にタリスマン・タトゥーがある。「タリスマン」とは「護符・お守り」の意で、自分の生まれた星の位置や込める意味、目標などによって、そのシンボルは異なる。そのシンボルを、占星術師・呪術師のDon Christobar Ruze Gades先生の指導監督のもと棟妃氏がデザインするというわけだ。さてオーダーの仕方だがこれは通常と同様、棟妃氏とのカウンセリングから始まる。この時、自分の姓名、生年月日、願望を伝えておく。そして実際に棟妃氏が神戸におられる先生の元へ赴き、タリスマンの選定の打ち合わせをした後、持参した針やインクなどを強化してもらった。彫り終わった後、今度は自身が神戸に行き、彫ったタトゥーを強化してもらう。自分のためにだけに効力を発揮する、一生もののタリスマンを手に入れられるなら、多少の手間は気にならないだろう。

